

公益社団法人 日本技術士会中部本部 電気電子情報工学部会 9 月例会のご案内

【主催】中部本部 電気電子情報工学部会

当部会では、定期的に例会（講演会、Web 講演会、見学会）を実施しており、9 月度の例会（講演会）を下記のように企画しましたのでご案内申し上げます。
電気電子情報工学部会の会員に限らず、多くの皆様の参加をお待ちしております。

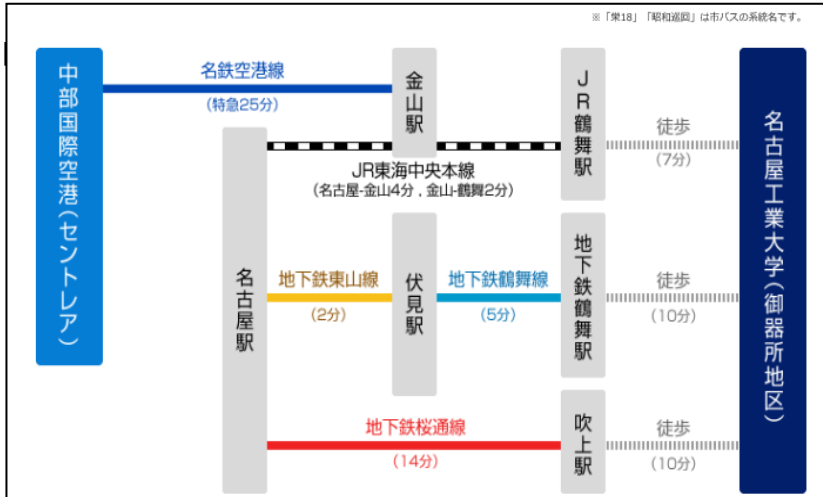
記

1. 日時：平成 30 年 9 月 15 日(土) 13:30～17:00（受付 13:00 より）
2. 場所：名古屋工業大学 大学会館 1 F 生協食堂
〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町、添付の構内地図参照
（JR 中央線鶴舞駅または地下鉄 4、5 番出口を東に 500m、約 5 分）
大学へのアクセス URL はこちら→ <https://www.nitech.ac.jp/access/print.html>
3. プログラム（講演の概要については 3 ページ目に記載）……[CPD：3 時間 予定]
13:00-13:30 受付
13:30-13:35 主催者開会挨拶
13:35-14:15 講演 1：「電子技術を用いた『人にやさしいワイヤーハーネス生産システム』の開発」
谷口 芳和氏（技術士：電気電子、勤務先：ひかり技術士事務所）
14:15-14:55 講演 2：「私が過ごした 4 2 年間」
後藤 隆志氏（1 次試験合格：電気電子、在学先：中部大学）
14:55-15:10 （休憩）
15:10-15:50 講演 3：「GPS 妨害とその対処方法について」
日比野 弘氏（技術士：電気電子、勤務先：中菱エンジニアリング(株)）
15:50-16:50 講演 4：「新学習指導要領から見る今後の情報教育」
井手 広康氏（1 次試験合格：情報工学、勤務先：愛知県立衣台高等学校 教諭）
16:50-17:00 連絡事項、主催者閉会挨拶 および 会場片付け
（17:15～） === 《交流会》 ===
17:15-19:00 交流会 ※希望者のみ。内容は 5 項参照
4. 参加費用：日本技術士会会員 ----- 1,000 円
中部エレクトロニクス振興会会員 --- 1,000 円
非会員 ----- 2,000 円
学生（未就業者） ----- 無料
5. 交流会 17:15～19:00
出席：希望者のみ
場所：名古屋工業大学 大学会館 1 F 生協食堂
会費：3,500 円
6. 申込み先
申込みは下記の Web フォームからお願いいたします。（申込期限 9 月 8 日(土)）
→<https://goo.gl/forms/ls9Z8CMyAMQcb5q03>
Web からの申込みができない場合、キャンセルする場合は、
部会講演会幹事(mailto:dib_uketsuke@googlegroups.com)まで、氏名、部門、会員・非会員の区別、
交流会の参加の有無をご連絡下さい。

以上

会場案内

大学へのアクセス URL はこちら→ <https://www.nitech.ac.jp/access/print.html>



【名古屋工業大学の構内案内図】



※案内地図 (名古屋工業大学)
正門内にも構内案内看板があり、大学会館の場所を確認頂けます。

講演概要

講演1：「電子技術を用いた『人にやさしいワイヤーハーネス生産システム』の開発」
谷口 芳和氏（技術士：電気電子、勤務先：ひかり技術士事務所）

私の実務経験の中から、中部発明協会三重県知事賞を受賞した特許の概要と発想の原点「人にやさしい生産とは・・・」について説明します。

この内容は、技術士2次試験で「実務経験」として発表した内容でもあります。またこれまで技術者として経験してきた「モノづくり」に対する思いも併せて報告させていただきます。

講演2：「私が過ごした42年間」
後藤 隆志氏（1次試験合格：電気電子、在学先：中部大学）

入社してから、定年を迎えるまでに従事した業務について、年代毎に実例を挙げて簡単に紹介します。
（元の勤務先：ブラザー工業(株)）

講演3：「GPS妨害とその対処方法について」
日比野 弘氏（技術士：電気電子、勤務先：三菱エンジニアリング(株)）

昨今、GPSは日常生活に広く使用され、欠かせないものとなってきているが、容易に妨害可能なシステムである。今回は、GPS電波特性の説明を通して妨害メカニズムといくつかの対処技術を紹介します。

講演4：「新学習指導要領から見る今後の情報教育」
井手 広康氏（1次試験合格：情報工学、勤務先：愛知県立衣台高等学校 教諭）

学習指導要領の改訂を受けて、小学校にプログラミング教育が新たに導入され、高等学校ではこれまで選択であったプログラミングが必修化される。

学習指導要領改訂の方向性である3つの観点

「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」に照らし合わせ、高等学校の視点から今後の情報教育について展望する。